

令和元年度

# 名寄市議会 「市民との意見交換会」



前回の報告会の様子（令和元年7月25日：名寄市民文化センター）

令和2年1月23日（木）

- |                     |         |
|---------------------|---------|
| ◎ふうれん地域交流センター（大会議室） | 午後1時30分 |
| ◎ノースタウンふれあい会館       | 午後1時30分 |
| ◎名寄東小学校（多目的ホール）     | 午後6時00分 |

令和2年1月24日（金）

- |                      |         |
|----------------------|---------|
| ◎駅前交流プラザ「よろ～な」（大会議室） | 午後1時30分 |
| ◎智恵文多目的研修センター（大集会室）  | 午後1時30分 |
| ◎名寄市文化センター（大会議室）     | 午後6時00分 |

# 意見交換会次第

1. 開 会
2. 班代表者挨拶
3. 出席議員自己紹介
4. 報 告

## ◎議会の活動報告

※定例会の審議概要について

(令和元年第3回定例会～令和元年第4回定例会)

※名寄振興公社に関する議会としてのこれまでの対応について

※王子マテリア株式会社名寄工場生産品集約に関するこれまでの対応について

※各委員会の行政視察について

※各委員会の活動状況について

5. 意見交換
6. お礼の挨拶
7. 閉 会

# 報 告

## 【定例会の審議概要について】

昨年7月開催の「市民との意見交換会」以降に開催された定例会の審議概要は、以下の通りです。

### ※令和元年第3回定例会（9月2日～9月27日）

一般質問に13人の議員が登壇し、市政の課題について質問を行いました。「名寄市廃校体育施設の設置及び管理に関する条例の制定」については総務文教常任委員会に付託、審査を終了し委員長報告のとおり原案可決しました。

主な補正予算では、北海道鉄道利用促進環境整備交付金に係る市町村支援金108万3千円、老人福祉費では、認知症高齢者グループホームの大規模改修や非常用自家発電設備の整備補助1,009万9千円、環境衛生費では、公衆浴場解体費助成金262万3千円の増額を可決しました。

追加の名寄振興公社経営改善事業費の1億1,055万円は、「名寄振興公社運営に関する審査特別委員会」に付託しましたが、議案の撤回が承認され、審査を終結することになりました。

また、今定例会において、全議員をもって構成する「平成30年度決算審査特別委員会」を設置し、各種事業の継続性、新規事業への考え方など、適正な予算執行にかかわって慎重な審査を行いました。審査の結果各会計決算はいずれも正確な収支が行われ、予算の執行が適正であったことを認め、認定すべきものと決定し結審しました。

定例会最終日には、補正予算として名寄振興公社緊急運営資金貸付金6,055万円を可決後に、名寄振興公社のあり方に関する特別委員会を設置することとし、特別委員会委員の選任を行いました。

他に、同定例会では「プラごみ対策とごみを出さないシステムの確立を求める意見書」他1件の意見書を可決しました。

### ※令和元年第4回定例会（11月26日～12月20日）

一般質問に13人の議員が登壇し、市政の課題について質問を行いました。議案審議では、「名寄市基幹相談支援センター条例の制定について」を市民福祉常任委員会に付託し継続審査とし、「名寄市都市計画マスター

プラン」及び「名寄市立地適正化計画」を定めることについて、2名の総括質疑と全議員による集中審議を行い、原案のとおり可決しました。

また、「名寄市における喫緊の課題について」緊急質問がありました。

主な補正予算では、子育て世代包括支援センター事業費 186 万 4 千円の増額、冬季スポーツ拠点化事業費 1,298 万円の減額を可決しました。

名寄振興公社経営改善事業費 5,100 万円の増額補正は、名寄振興公社のあり方に関する特別委員会に付託し、期限付きの審査を終了し附帯決議を付したうえで原案のとおり可決しました。

なお、同定例会では「被災者生活再建支援法の改正を求める意見書」他 1 件の意見書を可決しました。

決議案では「王子マテリア株式会社名寄工場生産品集約の再考を求める決議」を全会一致で決議しました。

## 【名寄振興公社に関する議会としてのこれまでの対応】

### ※特別委員会設置の目的と議案提案までの経緯

名寄振興公社のあり方に関する特別委員会は、名寄市の第3セクターであります、名寄振興公社の経営形態、施設整備、振興公社のあり方について、議会として一定の方向性を見出すことを目的に設置されました。

議案提案前の具体的活動は「名寄振興公社の現地視察」をはじめ、「第3セクターの運営について」北大教授の宮脇淳先生を講師に招き、講演会を開催し知識を深めました。その内容をもとに共通認識を深めると同時に、市民への情報発信を行っていく事も確認し、議会として議論の下地づくりを進めてきました。

### ※第4定例会付託議案の内容

付託議案の内容は、名寄振興公社経営状況等指導・監督・検証委員会の外部委員による、専門的な見地からの検証結果を踏まえた新たな計画でありました。経営改善方策一点目は、組織体制・経営体制の刷新、二点目はコンプライアンス・ガバナンス面の検証、三点目は損益収支計画では、過年度財務数値に90%のストレスをかけたバッドシナリオ、過年度数値ベース100%のグッドシナリオで計画し、年度末の資金不足を解消するための支援策として、5千万円の補助金を入れたいとの内容でありました。

### ※参考人招致を行い経営改善計画の理解を深める

検証委員会の外部委員であります、弁護士・公認会計士、そして、経営コンサル・教育旅行事業に従事され振興公社で採用された企画営業部長の3名を、参考人として招致を行い、名寄振興公社に対する検証結果、市の経営改善計画及び支援策に対する意見を求め、審査の参考としました。

### ※結審に向けて慎重な委員間協議

特別委員会に付託されて以降、数回の審査を重ね、結審に向けて集中審議及び委員間協議を行いました。

各委員からは、5千万円という補助金を入れて、公共性・公益性を担保するには、3月にならないと見えてこない。今までの公社の体制は会社として成り立っていなかった。利用者が多く営業を止めると影響が大きい。今後上向いて行くのではないか。市内経済も廻ることから補助金を出すべきだ。今後、適切な情報をもらって、これからの判断材料としたい。市民への説明も難しく苦しい判断が求められている。市として補助の限界も示された等の意見が出され、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

## 【王子マテリア（株）名寄工場生産品集約に関するこれまでの対応】

### ※名寄工場生産品集約の決定報告及び経過について

- ・令和元年10月4日、王子マテリア（株）小関代表取締役社長が来訪し、昨今の紙の需要構造変化に対応すべく、段ボール原紙の生産体制を再構築するため、苫小牧工場に生産集約する旨について、市長に経過説明がされる。
- ・同日、王子マテリア（株）から公式にプレス発表がされる。

### ※名寄市の対応について

- ・小関社長来訪の同日午後、北海道経済産業局、北海道を緊急訪問（市長・議長）し再考、撤回に向けての協議を行い、アドバイスを受ける。
- ・令和元年10月9日、王子マテリア（株）に対し緊急要請を実施。
- ・令和元年10月15日、市長メッセージを発表。
- ・令和元年10月15日、「王子マテリア株式会社名寄工場生産品集約に関する名寄市緊急対策本部」を設置。

- ・対策本部を中心に、北海道と連携し影響額調査を実施、名寄市経済に及ぼす影響は現在調査中であるが、上川総合振興局管内の取引等総額は、27億円に及ぶことが示されている。
- ・令和元年10月31日、あらためて「再考を求める要望書」を提出した。

#### ※再考を求める署名活動について

- ・広域市町村の協力をいただく。
- ・署名の当初目標10,000筆に対し、27,161筆と多くの皆さまの協力を得ることができた。

#### ※親会社、王子ホールディングスへの要望活動について

12月25日、署名を携え、再考に向けての要望を実施。

##### ○要望出席者

加藤市長ほか、「名寄市緊急対策本部のメンバー」、倉本北海道経済部長、佐藤上川総合振興局長、土別市長、紋別市長、留萌市長

##### ○要望内容

- ・多くの市民、関係する圏域からも名寄工場存続を望む声が多く寄せられ、27,000を超える署名が集まったこと。
- ・地域に影響がないよう再考を求めた。

##### ○要望への回答

- ・長きにわたり名寄工場を支援いただき感謝するとの言葉。
- ・影響を最小限にとどめることについて、会社として何ができるのか、名寄市からの提案を一緒に検討していきたい。
- ・敷地内には色々な施設があり、有効活用についてアイデアを示してほしい。

##### ○今後の対応

- ・願いは届かなかったが、今後、継続して協議を行うこととなった。

## 【各委員会の行政視察及び活動状況について】

### 【各委員会の行政視察について】

#### ◎総務文教常任委員会

10月16～18日の3日間で視察を行いました。①苫小牧市の自主防災組織については、自主防災組織、避難行動要援護者支援等を、②札幌市の「どうぎんカーリングスタジアム」の運営主体と競技団体によるスポーツ振興については、普及振興とジュニアアスリートの育成等を、③夕張市「合宿の宿ひまわり」の廃校の再活用については、合宿専用宿泊施設の運営状況等を、④当別町の官民共同運行コミュニティバスの状況については、路線・福祉・医療機関と住民送迎のバス一元化に成功し、利用者の利便性に配慮した運行方法を学びました。

#### ◎市民福祉常任委員会

「高齢化社会における健康寿命の延伸について」をテーマに11月5～8日の4日間、新潟県妙高市、見附市、千葉県佐倉市、鴨川市、神奈川県茅ヶ崎市の5か所の視察を行いました。

①妙高市では「健康長寿！目指せ元気百歳運動事業について」視察しました。「住み慣れた地域で個人の尊厳の保持と自立した生活ができる地域共生社会の実現を」が基本理念です。社会参加が希薄になる70歳代に的を絞り「同窓会」を開催。肉体的、社会的、精神的衰えをサポートし、フレイル予防対策に取り組んでいました。当市で現在進められている地域包括ケアシステムの推進とフレイル予防の参考になりました。

②見附市では「ごみ収集と分別方法について」視察しました。名寄地区衛生施設事務組合では炭化施設が老朽化し更新時期を迎えています。高齢者や転勤者が分かりやすいごみの出し方と分別方法を考える中で、プラスチックの処理や分別の考え方、機種選定時の具体的事項について参考になりました。

③佐倉市では「認知症にやさしい佐倉推進事業」について視察しました。推進事業では認知症の理解を深めるための普及や啓発、介護者を支えるネットワーク強化、家族の視点を重視した地域づくりなどを重点に、地域コミュニティと一体で進んでいます。認知症になっても安心してこの地域に住み続けることが委員会のテーマでもあり大変参考になりました。

④鴨川市では「地域包括ケアシステムの構築について」視察しました。縦割りから横断的な相談支援へ、職員の意識改革、定期的な勉強会を通して、複合的課題を抱えている要支援者を包括的相談支援につなげていくことの重要性を学ぶ事が出来、当市に反映したいと思います。

⑤茅ヶ崎市では「茅ヶ崎基幹型地域包括支援センターについて」視察しました。地域コミュニティの基盤が強固で、委託型地域包括支援センターの設置など各センター単位に福祉の総合的な相談窓口「福祉相談室」が設置され、身近な相談に対応できる体制が出来ていました。本市でも適正な人員配置や地域ネットワークをより充実し地域住民のニーズに速やかに対応できる体制強化が必要です。

## ◎経済建設常任委員会

11月5日から8日までの4日間の日程で、滋賀県高島市、滋賀県守山市、三重県津市、三重県伊賀市の計4カ所にて行政視察を行いました。

①滋賀県高島市では、地域産業を活かした取り組みとして高島市マキノ農業公園マキノピクランドを視察致しました。高島市から指定管理を受け、複合観光果樹園と都市交流施設整備による地域活性化を目的として運営し、観光果樹園に隣接した農産物直売と地場製品の紹介やレストランでは地場産食材を利用した料理を提供するなど、地域産業の振興と観光振興による地域経済の活性化に寄与しています。地域産業を活かした取り組みはもちろんのこと、観光振興の面においても、当市を含めた道北地域の産業と観光の振興策において参考となることが多くありました。

②滋賀県守山市では、中心市街地活性化推進の取り組みについて視察を行いました。特徴的な事項として、中心市街地活性化の連携推進体制として行政、商工会議所、まちづくり会社、文化体育振興事業団の4団体が月に1度連絡会議を開催し、情報共有と事業の取り組み連携を積極的に行っているとのこと。また、明確な中心市街地活性化区域の設定とコンセプトにより、テナントと分譲マンションが併設されたビルの建設による人の流れづくりや、歴史や文化を活かした街並み形成と案内表示の充実による回遊性のある歩行空間の整備が行われていました。今後の当市における立地適正化計画の推進、コンパクトシティ化に向けての取り組みにおいて、参考とすべき事例でありました。

③三重県津市においては、滞在型市民農園「城山クラインガルテン」を視察致しました。特に大阪、名古屋方面からの利用者が多く、別荘としての利用や、年間300日滞在する人まで様々とのこと。グリーンツーリズムでは、都市との交流活動や自然観察会、田舎暮らし体験を実施しています。

農業を活かした田舎暮らしやグリーンツーリズムの取り組み、都市と農村の



相互交流、遊休地の活用など、本市としての今後の取り組みに参考となる視察でありました。

④三重県伊賀市では、古民家等を活用した中心市街地活性化の取り組みについて視察を行いました。人口減少に伴う空き家の増加により、中心市街地の空洞化が進行していた伊賀市においては、「歴史的風致維持向上計画」「伊賀市立地適正化計画」「古民家等再生活用指針」等に基づき、「忍者の里 伊賀」に代表される町屋や長屋、武家屋敷などの歴史的資源と古民家などを活かしたまちづくりを進め、中心市街地の賑わいと移住者、観光客の増加を目指すことを目的として各種事業が推進されています。伊賀市の取り組みから、地域の特色や歴史的・文化的価値のあるものを洗い出し、まちづくりのグランドデザインを多面的に模索していく事の重要性を改めて認識できた大変参考となる視察でありました。

## 【各委員会の活動状況について】

### ◎総務文教常任委員会

10月28日の委員会では、王子マテリア株式会社生産品集約に関する市の対応、名寄市立大学学長選挙、新見公立大学との学術交流協定書の締結について報告を受けました。11月21日の委員会では、公民館条例の改正、学童保育所運営事業補助金、全国学力・学習状況調査の結果、自治基本条例見直しの進捗状況、消費税の税率の引き上げに伴う関係条例、成年被後見人等の権利の制限に関する条例、会計年度任用職員制度の条例、南相馬市被災地支援、名寄市強靱化計画、プレミアム付商品券事業、地方創生推進交付金事業等について報告を受けました。

### ◎市民福祉常任委員会

当委員会では、第4回定例会で付託された「名寄市基幹相談支援センター条例の制定について」審査を行いました。

これまでに開催した4回の委員会の主な審議内容等については、社会福祉協議会が運営する居宅介護支援事業所での不正受給に関する内容について、所管する健康福祉部より説明を受けました。委員会から、介護支援専門員業務に関する市としての指導及び対応についての資料要求を行い、権限移譲された事務の内容、名寄市の対応、昨年6月以降の経過について時系列で報告を受けるとともに、北海道から指導・助言を受けながら「監査」を継続し、現在、北海道において監査内容の精査が行わ

れております。

その他、市民部から年金生活者支援給付金対象者名簿の誤りについて、お墓に関するアンケート集計結果について、旧風連町農産廃棄物処理場の屋根破損の対応について、健康福祉部からは、名寄市総合福祉センターの指定管理について、医療介護連携情報共有 ICT 事業について、名寄市子育て世代包括支援センター事業について、へき地保育所の運営について説明を受け質疑を行いました。

### ◎経済建設常任委員会

当委員会では今年度の活動テーマを「産業振興による地域経済活性化とまちづくりについて」と定め活動することと致しました。委員会所管事項において、基幹産業である農業の振興や、地元商工業をはじめとする中小企業の育成と中心市街地活性化対策など多くの課題が山積しており、様々な地域産業の振興施策が必要不可欠です。今後も市内各関係団体（建設土木、商工業、農林業等）との懇談会や意見交換会等を実施し、所管事項における現状認識・課題共有を図りながら、施策推進に向けて取り組んで参ります。

これまで計 8 回開催された委員会の主な審議内容等については、①名寄市ずっと住まいる応援事業、②研修施設改修基本設計、③（株）名寄振興公社の債権譲渡問題、④名寄市都市計画マスタープラン見直し及び名寄市立地適正化計画策定状況、⑤名寄市下水道事業及び名寄市個別排水事業の地方公営企業法適用、⑥有害鳥獣農業被害防止対策実施状況、⑦哺育・育成センター設立検討状況、⑧王子マテリア（株）名寄工場生産品集約に関する対応等、⑨令和元年度道路除排雪実施計画、⑩（株）名寄振興公社における指定宿泊助成の取り扱いなど所管事項に関わる事業や計画などについて随時報告を受け審議を行いました。8 月 20 日開催の第 5 回委員会では、所管事業の農業・建設・土木関連の現地調査を実施し、進捗状況等の確認を行いました。

## 議会報告会の班体制（◎は班長）

《A班》（担当・・・駅前交流プラザ「よろ～な」、名寄東小学校  
ふうれん地域交流センター）

- ◎東 千春（議長、市民福祉常任委員会委員）
- 倉澤 宏（議会運営委員会副委員長、市民福祉常任委員会委員）
- 高野美枝子（市民福祉常任委員会委員長、議会運営委員会委員）
- 佐久間 誠（経済建設常任委員会副委員長、議会運営委員会委員）
- 山崎真由美（総務文教常任委員会副委員長、議会報特別委員会副委員長）
- 黒井 徹（総務文教常任委員会委員、名寄市監査委員）
- 遠藤 隆男（総務文教常任委員会委員、議会運営委員会委員）
- 富岡 達彦（経済建設常任委員会委員、議会報特別委員会委員）
- 今村 芳彦（経済建設常任委員会委員、議会報特別委員会委員）

《B班》（担当・・・名寄市民文化センター、ノースタウンふれあい会館  
智恵文多目的センター）

- ◎佐藤 靖（副議長、総務文教常任委員会委員）
- 塩田 昌彦（議会運営委員会委員長、経済建設常任委員会委員）
- 高橋 伸典（総務文教常任委員会委員長、議会報特別委員会委員）
- 山田 典幸（経済建設常任委員会委員長、議会運営委員会委員）
- 東川 孝義（市民福祉常任委員会副委員長、議会運営委員会委員）
- 川村 幸栄（市民福祉常任委員会委員、議会報特別委員会委員長）
- 清水 一夫（総務文教常任委員会委員）
- 三浦 勝秀（経済建設常任委員会委員、議会報特別委員会委員）
- 五十嵐千絵（市民福祉常任委員会委員、議会報特別委員会委員）